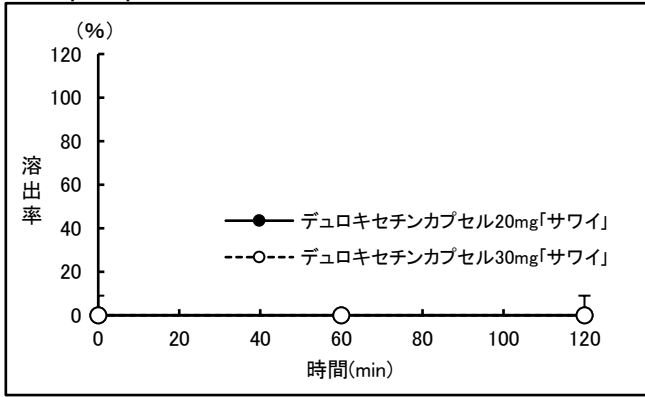


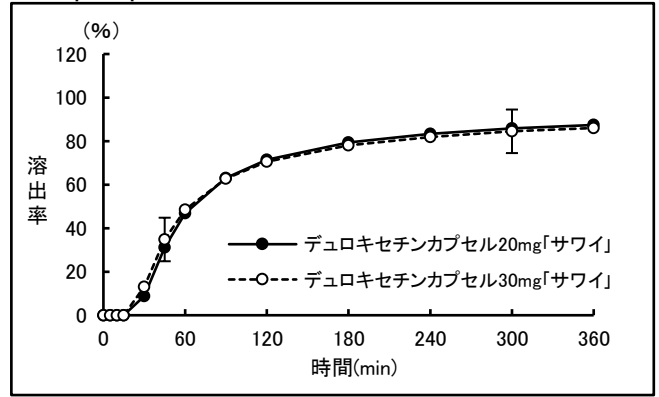
## デュロキセチンカプセル20mg「サワイ」

目的	試験製剤と標準製剤の生物学的同等性試験における溶出挙動の同等性の判定及び生物学的同等性の確認を行うため、「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン」(平成24年2月29日 薬食審査発0229第10号)に準じ、溶出試験を実施する。	
方法	日本薬局方 一般試験法 溶出試験法 パドル法	
条件	回転数・試験液	50rpm:pH1.2、50rpm:pH6.0、50rpm:pH6.8、50rpm:pH6.0(低イオン強度)、100rpm:pH6.0
	試験液量	900mL
	液温度	37±0.5°C
	試験数	12ベツセル
検体	試験製剤	デュロキセチンカプセル20mg「サワイ」(ロット番号:686K1S0505)
	標準製剤	デュロキセチンカプセル30mg「サワイ」(ロット番号:686K2S8805)
結果	<p>&lt;50rpm:pH1.2&gt;                      規定された試験時間(120分)において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±6%の範囲にあった。                      最終比較時点(120分)における試験製剤の個々の溶出率は、試験製剤の平均溶出率±9%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±15%の範囲を超えるものがなかった。</p> <p>&lt;50rpm:pH6.0&gt;                      標準製剤の平均溶出率が40%(45分)及び85%(300分)付近の2時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±10%の範囲にあった。                      最終比較時点(300分)における試験製剤の個々の溶出率は、試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±25%の範囲を超えるものがなかった。</p> <p>&lt;50rpm:pH6.8&gt;                      標準製剤の平均溶出率が40%(45分)及び85%(240分)付近の2時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±10%の範囲にあった。                      最終比較時点(240分)における試験製剤の個々の溶出率は、試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±25%の範囲を超えるものがなかった。</p> <p>&lt;50rpm:pH6.0(低イオン強度)&gt;                      標準製剤が規定された試験時間(360分)における平均溶出率の1/2の平均溶出率を示す時点(120分)及び規定された試験時間(360分)において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±8%の範囲にあった。                      最終比較時点(360分)における試験製剤の個々の溶出率は、試験製剤の平均溶出率±12%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±20%の範囲を超えるものがなかった。</p> <p>&lt;100rpm:pH6.0&gt;                      標準製剤の平均溶出率が40%(30分)及び85%(90分)付近の2時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±10%の範囲になかったが、f2関数の値が50以上であった。                      最終比較時点(90分)における試験製剤の個々の溶出率は、試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±25%の範囲を超えるものがなかった。</p>	
結論	以上の結果より、両製剤の溶出挙動は同等であると判断した。 両製剤の溶出挙動は同等であり、処方変更水準はB水準であることから、両製剤は生物学的に同等であるとみなした。	

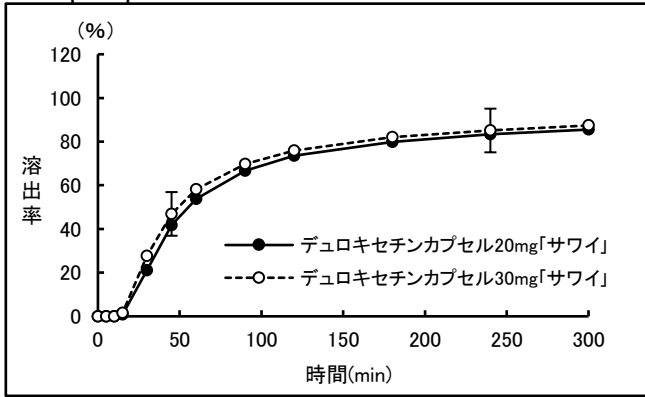
<50rpm:pH1.2>



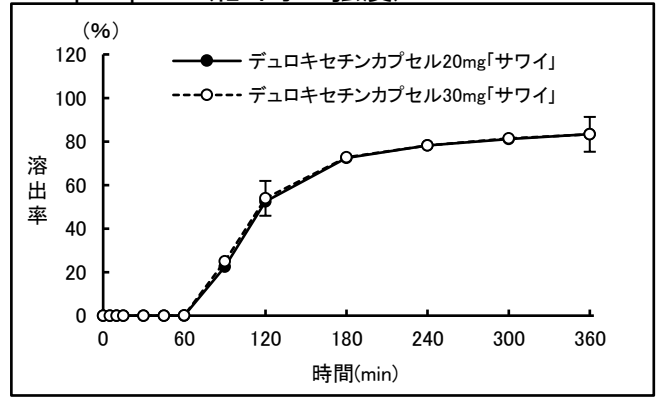
<50rpm:pH6.0>



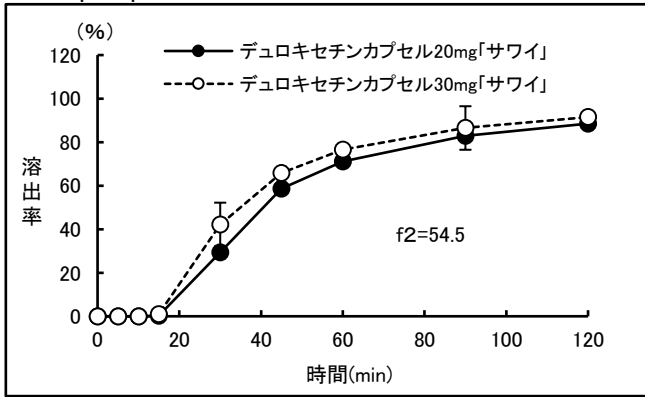
<50rpm:pH6.8>



<50rpm:pH6.0(低イオン強度)>



<100rpm:pH6.0>



( $\bar{\quad}$ ): 判定基準の適合範囲)